

インマヌエル中目黒キリスト教会 2017年4月16日聖日第2礼拝

召天者記念・イースターメッセージ

「その信仰によって、今も語る」

ヘブル人への手紙

11章1節～7節

梅田昇牧師

聖書朗読

新約聖書

ヘブル人への手紙

11章1節～7節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会)を使用しています

第二版の聖書は 401 ページ

第三版の聖書は 438 ページ

- 1 信仰は望んでいる事からを保証し、目に見えないものを確信させるものです。
- 2 昔の人々はこの信仰によって称賛されました。
- 3 信仰によって、私たちは、この世界が神のことばで造られたことを悟り、したがって、見えるものが目に見えるものからできたのではないことを悟るのです。
- 4 信仰によって、アベルはカインよりもすぐれたいけにえを神にささげ、そのいけ

にえによって彼が義人であることの証明を得ました。神が、彼のささげ物を良いささげ物だとあかししてくださったからです。彼は死にましたが、その信仰によって、今もなお語っています。

- 5 信仰によって、エノクは死を見ることのないように移されました。神に移されて、見えなくなりました。移される前に、彼は神に喜ばれていることが、あかしされていました。

- 6 信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることとを、信じなければならぬのです。

- 7 信仰によって、ノアは、まだ見ていない事がらについて神から警告を受けたとき、恐れかしこんで、その家族の救いのために箱舟を造り、その箱舟によって、世の罪を定め、信仰による義を相続する者となりました。

説教

召天者記念・イースターメッセージ

「その信仰によって、今も語る」

ヘブル人への手紙

11章1節～7節

梅田昇牧師

主テキスト

「彼は死にましたが、その
信仰によって、今もなお
語っています。」

(ヘブル書 11:4)

受難週を越えて

- ・ 今朝はイエス・キリストの復活を記念するイースター礼拝
- ・ 新約聖書において、十字架と復活は、中心的な真理
- ・ 十字架による贖いの業が確かであることを示すために、主キリストは、3日後に死からよみがえり、多くの場所で弟子たちに顕現された。

受難週を越えて

- ・ ペテロ（3回もイエスのことは自分は知らないと言った。マタイ26:33～34、27:69～75）やヨハネ（イエスが捕らえられた時イエスを見捨てて逃げてしまった。マルコ14:33-50、マタイ26:56）のような弟子たちは、よみがえりの主キリストにお会いして、信仰が回復し、確信ある信仰者へと変えられたのです。

受難週を越えて

- ・ 主の復活を目撃した弟子たちによって、教会の働きが開始され、力強く発展していった。
- ・ 今朝は、イースター礼拝であるとともに、ご案内のように召天者記念礼拝として、神様を礼拝する朝です。

召天者記念礼拝

- ・キリスト教は、死者や先祖を大切にしない宗教だと誤解している方がありますが、それは正しい批判ではありません。
- ・死者や先祖を礼拝、崇拝するわけではありませんが、召された方々を忍び、神様を崇めることには大変意義があります。
- ・ヘブル書11章は、「信仰の列伝」、
「信仰のヒロ - の章」。
神様を信頼し生涯を生きた信仰の人物達。

・ 信仰の定義 (1 節)

1 . 信仰とは何か : 1 節 「 信仰は望んでいる事からを保証し、目に見えないものを確信させるものです 」

・ 信仰とは、人間を越えた絶対的な存在に対する依存であり、委ねる態度。

- ・ 私たち人間は、信仰なくして生きて行くことができません。
- ・ 信仰とは、希望を保証する物であり、目に見えないものを確信すること。

2．創造者に対する信仰：この世界は神様によって創造されたと聖書は宣言（3節）。

「この世界が神のことばで造られたことを悟り、したがって、見えるものが目に見えるものからできたのではないことを悟るのです。」

3．キリストに対する信仰

・ 信仰によって義とされる（4節）

「信仰によって、アベルはカインよりもすぐれたいけにえを神にささげ、そのいけにえによって彼が義人であることの証明を得ました」。

1．信仰義認について；4節は、『信仰による義認』と言われる。

- ・ アベルとカインの物語は創世記4章。
- ・ 兄のカインは農耕者。弟のアベルは牧羊者。カインは穀物を献げ、弟のアベルは羊の群れの中から肥えた初子を献げた。

- 主はアベルの献げ物に目を留められたが、カインの献げ物には目を留められなかった。神様は、カインとアベルの心をご覧になった。
- アベルは信仰によって子羊を献げた。カインには、信仰が無かった。彼らの間に、信仰の違いがあった。

2 . マルティン・ルターによる信仰義認
ヴィッテンベルグ城教会の門の扉。

「95か条の提題」を1517年10月31日
に張り出す。

免罪符を売買するローマ教皇庁に抗議。
宗教改革の烽火をあげた

- ・ルターの「聖書の至上主義、信仰のみによる救い、万人祭司制」の主張は、宗教改革の3大原理としてすべてのプロテスタント諸教会の共有財産となっている
- ・インマヌエル総合伝道団は、プロテスタントの霊的な遺産を受け継いでいる

3 . 信仰によって義とされた人々

(4 節)

- ・ 丸の内教会において、主都中央教会において、中目黒教会において、自分の罪を認め、主キリストの十字架を信じ受け入れて、神様との和解を経験された方々が沢山あられ、天に凱旋された
- ・ ヘブル書12章1節
「このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから」とありますように、天国に知り合いが沢山おられることでしょう

- すでに天に帰られた方々のお一人お一人
が最後まで真実に歩まれ、主の祝福が注
がれ、栄光が表された
- 今生かされている私たちは、その一人一
人の信仰の生涯を振り返り、その信仰の
模範にならわせて頂きたい

・ 信仰によって今も語られる

「神が、彼のささげ物を良いささげ物だとあかししてくださったからです。彼は死にましたが、その信仰によって、今もなお語っています。」（4節後半）

- ・ アベルは、兄に殺害されるという悲劇的な死に方をした
- ・ 今もその信仰によって、私たちに何を語っているのでしょうか？

1 . 「神の愛と真実」を語る

多くの信仰の先輩方が地上の生涯を終えて、天に帰って行かれました。
その生涯と生きざまを通して、神様の愛と真実について語り続けていてくださいます。

2 . 「キリストの救いの確かさ」を語る

天に帰られた方々は、主キリストによる救いの素晴らしさを証しされました。私たちも与えられた信仰のコースを最後まで完走しましょう。

3 . 「神様にある幸い」を語る

地上の生涯を終えて、天に凱旋された方々は、神様とともにある幸いを証しされました。涙の谷を通過される日々があったことですが、主は、そこを泉の湧くところと変えてくださったのです。天に凱旋された方々は、イエス様の御翼のもとで、憩い安らいでおられます。

信仰の大切さ

ヘブル書11:6 「信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならないのです。」

- ・ 6 節は信仰の大切さについて教えている

終わりに

すでに天に凱旋された方々が信じて歩まれた神様を信じて、皆様のお一人お一人が歩まれまますことをお祈りしてやみません。